**令和元年度「ＡＮＡと連携した豪州プロモーション」について**

　(一社)長崎国際観光コンベンション協会（DMO）と全日本空輸㈱長崎支店は、2020年東京オリンピック・パラリンピック、2021年ワールドマスターズゲームズ2021関西に向け、豪州からの観光需要を取り込むため、全日本空輸㈱シドニー支店と連携して豪州からジャーナリストを招聘し、長崎市の魅力を発信するためのプロモーションを実施します。

なお、本招聘事業に係るシドニー＝羽田＝長崎間の移動に関しては、全日本空輸㈱より輸送を協力いただきます。

また、招聘時の豪州ジャーナリスト4名の宿泊は、長崎市宿泊施設協議会の会員施設より無償で提供いただきます。

１．プロモーション展開

（１）豪州ジャーナリストによる長崎市での取材をもとに体験記事を新聞、雑誌、デジタル媒体などに掲載する

なお、宿泊施設の紹介記事に関しても長崎市宿泊施設協議会と連携して掲載する

（２）豪州ジャーナリストのもつ紙面連動のソーシャルネットワークで長崎市の魅力を発信する

（３）ダイレクトEメールにて長崎市の観光情報の発信する

（４）2020年上期、ANAシドニー支店において、豪州からの旅行者について、長崎（九州）への送客を後押しする

 　　プロモーションを計画

２．取材について

・取材時期　2019年10月5日(土）～7日（月）

・招聘記者　豪州ジャーナリスト4名（※詳細は別紙１参照）

・豪州で450万人の読者を持つ全国紙の記者

・豪州の旅行記者協会の会長

・通常の旅行記事では扱わないような旅行や地域を掲載する雑誌の記者

・ラグジュアリーからアドベンチャーまで幅広く掲載する季刊の旅行雑誌の記者

・取材内容　歴史・文化・自然・食といった観光の4大要素を中心に紹介

①長崎くんち

②世界遺産関連施設（軍艦島、グラバー園、大浦天主堂等）

③平和関連施設（平和記念公園、原爆記念館等）

④稲佐山夜景

⑤長崎の食（卓袱料理、ちゃんぽん、寿司等）

３．その他

（１）広域連携に関して

長崎市の他、雲仙市、熊本市・阿蘇を取材予定

（２）意見交換会に関して

長崎市宿泊施設協議会参加施設の皆様と豪州のジャーナリストの方々とで意見交換会を開催する

参加施設：稲佐山観光ホテル、ホテル長崎、ＡＮＡクラウンプラザホテル長崎グラバーヒル、長崎梅松鶴、

ザ・ホテル長崎ＢＷプレミアコレクション、ガーデンテラス長崎ホテル＆リゾート、

ホテルニュー長崎、アイランドナガサキ（全８施設）

　以上

一般社団法人 長崎国際観光コンベンション協会

DMO企画戦略部（担当：石川）

電話：０９５－８２３－７４２３

≪招聘雑誌・記者資料≫

**①「ESCAPE」「ESCAPE.COM.AU」**

記者：Ms.Dominique Hermo – News Corp (Commercial Content Editor at News Corp Travel Writer).

 ・Dominique氏は、ニューズコーポレーション社豪州全国紙の週に一度の旅行特集である「ESCAPE」の編集長から指名され参加。本取材後「ESCAPE」に記事を執筆し、「ESCAPE.COM.AU」(WEB)にも掲載予定。（豪州での読者数　450万）



**②「MINDFOOD MAGAZINE – AUSTRALIA & NEW ZEALAND」**

記者：Helen Hayes – Freelance Editor / Writer -Online & Print Publications (Mindfood Magazine)

・Helen Hayes氏は、編集長に指名された経験豊富なフリーランス記者で現在豪州の旅行記者協会の会長。

・「Mindfood Magazine」は、総合情報雑誌で、健康、グルメ、美容、ファッション、旅行、環境、文化等の記事を掲載。



**③「GET LOST MAGAZINE」**

記者：Deputy Editor – Ms. Leah Glynn

・「Get Lost Magazine」は、通常の旅行記事では扱わないような旅行や地域を掲載する雑誌であり、本取材旅行で取材する「長崎くんち」の記事を掲載予定であり、また、各エリアの記事も同様に掲載予定。



**④「INTERNATIONAL TRAVELLER MAGAZINE」**

記者：Carla Grossetti– Freelance Journalist / Writer, copy editor and proofreader

・「INTERNATIONAL TRAVELLER MAGAZINE」は、ラグジュアリーからアドベンチャーまで幅広く掲載する季刊の旅行雑誌で、本取材の記事を４ページの特集記事として掲載予定。（季刊読者数　10.1万人）



・